

- 1 事業名 平成24年度教育事業 「フォーラムニューリーダー2012」
～原点回帰そして新たな生徒会活動を作り上げよう～
- 2 趣 旨 高等学校における生徒会活動の運営に携わる新生徒会役員のリーダーとしての企画・運営等の資質を高め、生徒会活動の充実・発展と、今後の東北の高校生徒会のネットワーク形成を支援する。
- 3 期 日 平成24年10月24日(水)～10月26日(金) 2泊3日
- 4 参加者 高等学校生徒会役員(132名)及び顧問(26名)
参加校
- | | | |
|-----|----------------|--------------|
| 青森県 | ○八戸聖ウルスラ学院高等学校 | 五所川原商業高等学校 |
| 山形県 | 羽黒高等学校 | 山形城北高等学校 |
| 宮城県 | ○宮城県名取高等学校 | 常盤木学院高等学校 |
| | 東北学院榴ヶ岡高等学校 | 宮城県石巻工業高等学校 |
| | 宮城県仙台第三高等学校 | 宮城県古川黎明高等学校 |
| 福島県 | ○福島県立勿来工業高等学校 | 松韻学園福島高等学校 |
| | 福島県立平工業高等学校 | |
| 岩手県 | ○岩手県立宮古北高等学校 | 岩手県立大東高等学校 |
| | 岩手県立大船渡高等学校 | 花巻東高等学校 |
| | 岩手県立遠野高等学校 | 岩手女子高等学校 |
| | 岩手県立釜石高等学校 | 岩手県立花巻南高等学校 |
| | 専修大学北上高等学校 | 岩手県立千厩高等学校 |
| | 岩手県立久慈東高等学校 | 岩手県立水沢工業高等学校 |
- (○は実践発表校)

5 内 容

(1) 日 程

10月24日(水)

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
							開 会 行 事	入 所 説 明	実 践 発 表	つ ど い	夕 食	交 流 会	引 率 打 合	入 浴	就 寝 準 備	就 寝

10月25日(木)

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
清 掃	つ ど い	朝 食	移 動	ワ ー ク シ ョ ッ プ	昼 食		ワ ー ク シ ョ ッ プ			つ ど い	夕 食	ワ ー ク シ ョ ッ プ 発 表 会	引 率 打 合	入 浴	就 寝 準 備	就 寝

10月26日(金)

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
清 掃	つ ど い	朝 食	退 所 点 検	移 動	講 演	ふ り か え り	閉 会 行 事	昼 食								

(2) 指導者

- ・ 交流会 (参加者の交流レクリエーション)
講師 ガールスカウト岩手県連盟 連盟長 平井 ふみ子 氏
- ・ ワークショップ (学校を活性化するための生徒会活動のあり方)
講師 ガールスカウト岩手県連盟 連盟長 平井 ふみ子 氏
- ・ 講演 「生徒会活動とは何か」
講師 千葉大学教育学部 教授 明石 要一 氏

(3) 企画のポイント

高等学校の生徒会役員リーダーとしての資質と意欲の向上、東北各県の高等学校生徒会活動の様子について情報交換をし、生徒会の運営を支援することを目的として企画した。

昨年度のアンケートの結果から、顧問からは「生徒会の役割について生徒に理解してほしい」、「主体性を持ってほしい」、「自治という概念を理解してほしい」、「沿岸との交流をしたい」等の意見が出された。そこで、実践発表では沿岸部の現況と生徒会活動について発表できる東北4県沿岸部の4校を選定した。ワークショップでは、フォーラム終了後、生徒が主体になり、ただちに実践できる具体的な活動を計画する話し合いをした。ワークショップの発表会では、帰校後実践することを決意発表させた。高校生130名程度を一斉に指導するために、経験豊富な講師を選定した。講演会では「生徒会」の根本的な意義について生徒会役員に考えさせるために、講師には、社会教育学・学校の社会学を専門としている大学教授を選定した。

(4) 広報のポイント

東北各県の全ての高等学校等へ、開催要項と参加募集チラシを配布した。また、当施設ホームページにも事業の内容を掲載し、募集を呼びかけた。事業開催前に2回、各報道機関へ開催内容と取材のお願いのFAXを送った。

(5) 運営のポイント

ワークショップのグループ編成は、具体的に生徒会活動を実践できることを目的とし、更に同じグループ内での他校の交流もできるように、私立・公立・他県を考慮し、2校を組み合わせて合計11グループを編成した。また、ワークショップの話し合いが活発になるようにワークショップの講師に交流レクの講師もお願いした。

参加校の様子や生徒会活動の取り組みが分かるように学校紹介の冊子を作成し、配布した。

6 成果とその普及

昨年度は東北4県からの参加であったが、今年度は東北5県からの参加で、私立10校、公立15校、生徒130人程度の参加になった。いろいろな特色を持った高校の生徒会リーダーがお互いに刺激となり、情報交換と交流を深め、リーダーとしての自覚と企画力を高めた。生徒会活動をこれから活発にしていこうとしている顧問にとっても、他校の生徒会の様子がわかるとともに、話し合い活動を通して生徒が成長している姿を見ることができた。また、事後アンケートにおいて例年参加している高校も、この事業に参加してきたことによって生徒の生徒会活動に対する意識のレベルが上がってきているとの声を聞くことができた。

福島県において複数校による生徒会役員合同研修会が実施され、宮城県においても生徒会役員合同研修会が計画されている。

事業報告をホームページに掲載し、普及を図る。

7 今後の課題

参加校の事業に対するニーズが多様化しており、そのニーズに対応することが難しくなっている。生徒会活動があまり活発ではない学校にとっては刺激を受け、生徒、顧問とも得るものが多いが、生徒会活動が軌道に乗り、更に高いレベルを求めている高校にとってはもの足りなく感じている。生徒会活動をこれから活発にしていこうとする高校が参加校の多数を占めることから、来年度は生徒会活動をその段階を企画のポイントにした方がよいと思われる。また、今年度は講師の関係で、講演会が最終日になり、事業全体の流れがよいとはいえなかったため、効果を高める事業の流れを意識して企画しなければならない。



実践発表



ワークショップ



講演会